

M O N T H L Y **vol.60** U P

製本の4つの工程、公開します。



綴じ方いろいろ、工程いろいろ。 図解でわかる、並製本ができるまで。

製本方法には並製本と上製本があります。特に並製本は、雑誌やパンフレットなど、普段から接する機会が多いのではないのでしょうか。そこで今回は並製本の「無線綴じ」、「あじろ綴じ」、「平綴じ」、「中綴じ」の各工程についてご紹介します。

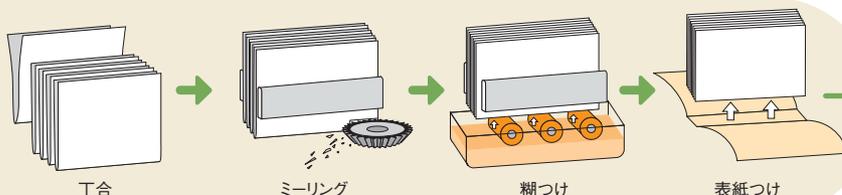
表紙と中身を同時に製本し、三方裁ちして仕上げる並製本。短い時間で大量に生産ができるという点が最大の長です。その綴じ方には、針金で綴じする方法と、糊(ホットメルト/180℃で溶解し、常温で固化)で接着する方法があります。さらに針金で綴じする方法では「平綴じ」と「中綴じ」、糊で綴じする方法では「無線綴じ」と「あじろ綴じ」

に分かれます。特に雑誌類の製本方法として一般的な中綴じと無線綴じの使用頻度もっとも高くなっています。教科書など強度が求められる本には、平綴じが使用されます。

現在では製本工程も自動化され、折り、丁合、綴じ、表紙付け、仕上げ三方裁ちまで、一貫して機械化されています。

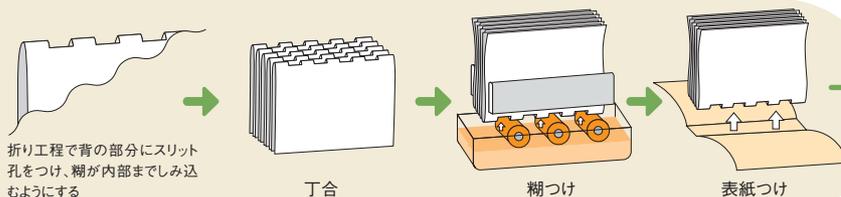
無線綴じ

針金や糸などの綴じ材料を使わずに、糊で中身と表紙をいっしょに固定する。背を3mmほど削り取り(ミーリング)、さらにガリ入れてキズをつけた後に、糊をつけ、表紙も接着する。



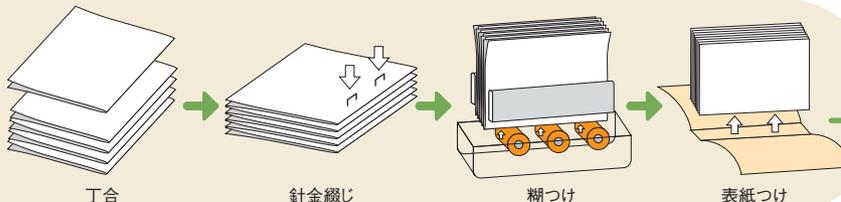
あじろ綴じ

無線のように背をすべて削らず、数mm間隔でスリット孔を開けておき、そこに糊を浸透させ、表紙も接着する。背部分があるので丈夫な本ができる。



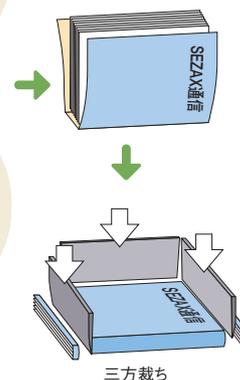
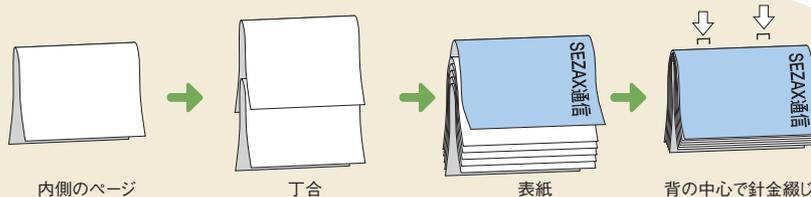
平綴じ

丁合の終わった折丁の背から約5mmを綴じ代として、2~3カ所針金で綴じる。平綴じはノドいっぱいにかかないので、レイアウトに注意が必要である。



中綴じ

ページの少ない本の綴じ方で、表紙と中身を同時に丁合し、背の部分を針金で綴じる。厚い本では、本の内側と外側で本文寸法が変わる。





<http://www.sezax.co.jp>

□本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2511(代)	FAX 03 (3758) 2754	
		営業専用	FAX 03 (3758) 2544	
□渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL 03 (3400) 9211(代)	FAX 03 (3409) 7315	
		5F	TEL 03 (3400) 9401(代)	FAX 03 (5468) 9253
□マニュアル企画部	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2591(代)	FAX 03 (5482) 2777	
□下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL 03 (3758) 2516(代)	FAX 03 (3758) 8850	

株式会社セザックスクリエイティヴ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970(代) FAX 03 (3409) 2732

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 0527(代) FAX 03 (3409) 6610



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。

この小冊子は再生紙を使用しています。